

[分 類]	普及技術
[成果名]	ハクサイ尻腐病防除にソタールWDGが有効である
[要 約]	ハクサイ尻腐病防除にソタールWDGの 1,000 倍液を散布する。
[担 当]	野菜花き試験場佐久支場
[部 会]	病虫部会

1 背景・ねらい

ハクサイ尻腐病は主要な産地での発生が増加傾向にあり、本病防除の重要性が増しているが、本病に対し、防除基準に掲載されている薬剤はない。そのため、現場から防除に有効な薬剤が求められている。そこで、本病に対する薬剤の効果および薬害の有無を検討した結果、有効性を確認できたため普及技術とし、公表する。

2 成果の内容・特徴

(1) ハクサイ尻腐病防除にソタールWDGの 1,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

ソタールWDG

[一般名及び成分含有量] オキシリニック酸 15.0% (FRAC コード^注:31)、
トルクロホスメチル 50.0% (FRAC コード^注:14)

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] この登録に係る使用方法では該当がない

[対象作物に対する適用登録状況（平成 27 年 2 月 17 日現在 JPP ネット確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	使用 回数	使用 方法	オキシリ ニック 酸を含む 農薬の使 用回数	トルクロホ スメチル を含む農薬 の使用回数
はくさい	尻腐病 軟腐病	1,000 倍	100～ 300 L /10a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内	3 回以内

本試験は純粋に殺菌剤の効果を判定する目的のため、散布条件は適用登録の範囲を超えた。

注) FRAC コードとは FRAC (殺菌剤耐性菌対策委員会) が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jpca.or.jp/labo/mechanism.html>) を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 本剤はスターナ (オキシリニック酸) とリゾレックス (トルクロホスメチル) の混合剤である。
- (2) 本剤は治療効果を有するが、ハクサイ尻腐病は球底部に発生するため、結球前からの予防的散布を行い、薬液が球底部へかかるように心がける。
- (3) 薬剤抵抗性の出現を回避するため、作用性の異なる薬剤をローテーション使用する。
- (4) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用は薬害が発生する恐れがあるので避ける。

4 対象範囲

県内のはくさい栽培地域約 2,730ha

5 具体的データ

- (1) ソタールWDGのハクサイ尻腐病に対する試験を佐久支場内ほ場で実施した。平成 25 年の試験は多発生条件下の試験となった。本剤の 1,000 倍液は、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった (表 1)。

表1 ハクサイ尻腐病に対するソータルWDGの防除効果（平成25年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{x)}	防除価 ^{y)}	薬害
ソータルWDG	1,000	30	50.0	16.4 a ^{z)}	77.3	なし
無処理	—	30	95.6	72.2 b		

注)

x) 発病度 = Σ (程度別発病株数×指数) × 100 / (調査株数 × 4)

程度別発病指数 0: 病害の発生を認めない 1: 外葉の1葉に尻腐病の発生が認められる 2: 外葉の2~3葉に尻腐病の発生が認められる 3: 4葉以上だが結球葉まで至らない尻腐病の発生が認められる 4: 結球葉まで尻腐病の発生が認められる

y) 防除価 = (無処理区の発病度 - 処理区の発病度) × 100 / 無処理区の発病度

z) 表中のアルファベットは、同一項目の異なる文字間にU検定による1%水準の有意差があることを示す

試験場所: 野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 品種: 「優黄」 定植: 5月16日

区制・面積: 1区18m² 80株/区 3反復 対象病害の発生状況: 多発生

処理方法: 6月11日、18日および27日の3回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。散布薬液には展着剤Yーハッテンの5,000倍を加用した。

調査方法: 7月11日に各区の30株について、収穫物の球底部の発病有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(2) 平成26年の試験は中発生条件下の試験となった。本剤の1,000倍液は、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表2)。

表2 ハクサイ尻腐病に対するソータルWDGの防除効果（平成26年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{x)}	防除価 ^{y)}	薬害
ソータルWDG	1,000	30	33.3	10.6 a ^{z)}	74.7	なし
無処理	—	30	72.2	41.9 b		

注)

x)~z)は表1と同じ

試験場所: 野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 品種: 「優黄」 定植: 5月15日

区制・面積: 1区14.6m² 65株/区 3反復 対象病害の発生状況: 中発生

処理方法: 6月13日、19日および26日の3回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。散布薬液には展着剤Yーハッテンの5,000倍を加用した。

調査方法: 7月7日に各区の30株について、収穫物の球底部の発病有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(3) 平成27年の試験は中発生条件下の試験となった。本剤の1,000倍液は、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表3)。

表3 ハクサイ尻腐病に対するソータルWDGの防除効果（平成27年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{x)}	防除価 ^{y)}	薬害
ソータルWDG	1,000	40	44.2	12.1 a ^{z)}	51.6	なし
無処理	—	40	65.8	25.0 b		

注)

x)~z)は表1と同じ

試験場所: 野菜花き試験場佐久支場 場内ほ場 品種: 「黄信」 定植: 5月18日

区制・面積: 1区19.10m² 85株/区 3反復 対象病害の発生状況: 中発生

処理方法: 6月15日、22日および29日の3回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。散布薬液には展着剤Yーハッテンの5,000倍を加用した。

調査方法: 7月8日に各区の40株について、収穫物の球底部の発病有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きおよび畑作物の新規農薬等の効果試験、平成25~27年度(2013~2015年度)、民間受託